

展望台

わが国初のEW技術セミナーを主催してからの40年を振り返って

風間 茂穂



私はこの世に生を受けて80数年、生死に関わる事件に遭遇した件は数多く持ち合わせておりますが、これらはさておいて、総合電子株式会社を創立して今年で間もなく40年になります。

創立当時、専門誌の紙面には、やたらと“ステート・アート”という言葉を見かけることが多くなり、辞書や有識者の間でも明確な説明をして頂けなかった時代でした。私の仕事、すなわち日本でも外国でもあまり見かけない新製品や技術を、世界各国から日本に輸入している間にやっと意味が判明しました。すなわち世界に先駆けて完成した製品や技術のことを、この頃に“ステート・アート”と称されていたのです。

すなわち、第2次大戦は終結したが、レーダーやそれに伴うECM（電子妨害）技術の重要性が注目され、それに伴う技術が急速に進み、それに伴うデバイス（半導体類）、コンポーネント、や関連装置が急速に開発され急速に進歩、または必要とする時代が到来してきました。ECM、ECCM（対電子妨害）関連の書籍や雑誌も、次々と世に出回る時代がやってきたのです。これらの流れから今や関係者の間では誰でもご存知のEW（電子戦）の名称へと継続されてきたのです。

さて、そのころの日本はどうしていたのでしょうか？ 日本は残念ながら敗戦国ですから、EWの分野に参画する企業はほとんど無かったと思いますが、政府も決して推進はしませんでした。そこで、コピー機、テレビ、レコーダーのような家電・民生品に特化し、あまりにも日本の企業と製品類の勢力に負けてしまい、主として米国のオリジナル製品として世に送り出した製品は日本製にとって代われ、それどころかオリジナル製品を世に出した会社は、次々と消滅してしまって、名を残している会社はほとんど無くなり、多くの方は製品のことはもちろんのこと、そうだったのかと知らされることが多くなっていると思います。

その間に日本は今で言うEWの分野には手を出さなかった半面、私の実体験から、およそ10年近く遅れていると感じ、これは将来のために良からぬ結果を招くことを感じ取り、すかさず当時持ち合わせた人脈を生かし、良い方法は何かを考え、創立して間もない当社は昭和55年(1980年)から、主に米国の優良会社やコンサルタントとコンタクトしてEW技術セミナーを開催し、多くの関係者のお役に立ちたいと、合計14回、毎年4月中旬、新年度が始まって皆さんの緊張が少し解けている時期に、都内のホテルで毎回2日間開催、3～5人の講師を招きました。初回の時は、F-15が日本で導入選定の最終段階だったと記憶しています。当時は有料のセミナーなど存在もしないし、あまり考えられない時代でしたが、EWの現状と将来動向など、とんでもない題目だったと思います。

その証拠に、NHKが開きつけて2日間をわたって取材に来ましたが、EW技術のタイトルを削除してほしいといわれ、その上0.5秒位の放映でした。有名な講師の中には講演料のほかに、飛行機もファースト・クラスでないとOKしてくれない人もいましたが、毎回5～6人の有力講師によるEWの現状と将来動向の演題での講演でした。振りかえって、私は間違っただけでしてはしなかったと自負しています。

テーマの例では、DFD、ESM、DECOY、

ADA、E. Jammer、RPV(2回)、RCS計測、EMI、電波暗室製作の注意事項、RCS計測デモ、APPLIED ECM-(1～3)やEW101～104の筆者も含まれます。

今やDRONE(RPV)も飛ぶJammerとステルス機の時代になりました。そのRPVを発明したのはイスラエルのIAIですが、IAIから招待されて実戦部隊に招待されたこともありました。

本EW技術セミナーを始めて2回目頃に、AOC(Association of Old Crows)本部の会長から日本の支部を設けてはどうかの要請があり、ワシントンにあるAOC本部に招待され、本部長より認証の証明書を受取り、AOCジャパンチャプターの設立と支部長の認証を受けるに至りました。

よくAOCのシンボルにカラスマークがついているのはどうしてか?と聞かれますが、ここで簡単に説明致します。AOCはそもそも主として第二次大戦中に無事生還したパイロットの同窓会の自慢話から始まります。特に米国人はジョークが好きで、パイロットのニックネームをカラスになぞらえております。同窓会の回を重ねるうちに、皆から「ただの同窓会ではもったいない。これからは、もし戦争が起きたら電子戦(EW)になること間違いなし。従って真剣に技術の構築のための学会にしよう」と、全員の意向で、AOCすなわち年寄カラスの名を残し、シンボル・マークもカラスを残すことになり、今に至っている次第です。本年も当協会から40名以上の方々が年次大会に出席されたと聞いておりますが、会員になるとJEDという機関紙が送られてきますのでご入会をお勧め致します。

先に述べたセミナーを開催していたころは、日本支部でも220人を超えていましたが、現在では会員が50人を下回っています。EWに関する唯一の技術学会AOCへの入会をお勧め致します。

総合電子株式会社 代表取締役/AOC日本支部長